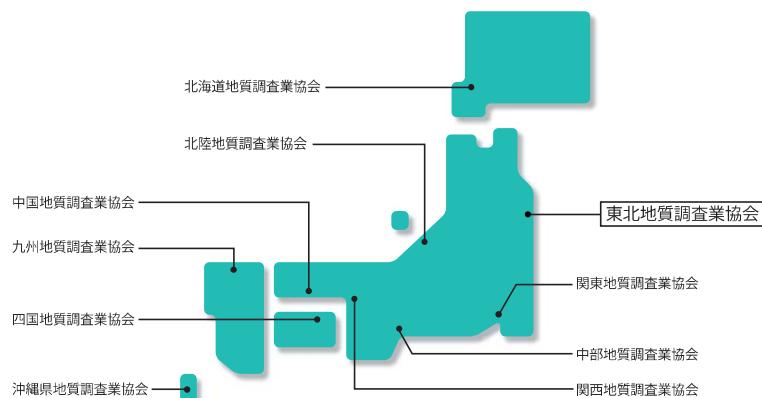


地質調査で安全で住みやすい明日を造る

TOHOKU
GEOTECHNICAL
CONSULTANTS
ASSOCIATION



一般社団法人**東北地質調査業協会**

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4丁目1番8号（パルシティ仙台1F）

TEL022-299-9470 FAX022-298-6260

E-mail tohoku-geo@nifty.ne.jp

ホームページ <https://tohoku-geo.ne.jp/>



■MESSAGE

東北の守り手としての自負を胸に
地質・地盤のスペシャリストとしての
役割を担っていきます。



日頃より、(一社)東北地質調査業協会にご高配賜り感謝申し上げます。

当協会は地位の向上、技術の向上を目指して設立され、会員間の切磋琢磨と共に発展し今に至っております。これも皆様からの永年のご支援、ご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

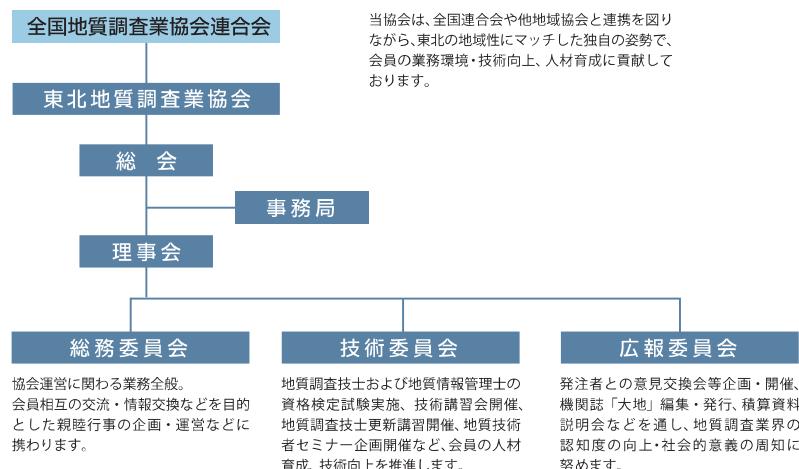
会員各社は東北各地に根ざしており、地域のインフラ整備や建物建築の地質調査等の活動をしておりますが、ひとたび災害等が発生すれば東北の護り手として、昼夜を問わず復旧・復興の活動をしてまいりました。

温暖化に伴う気象変動による大規模な気象災害が常態化している昨今、我々は災害に備えるべく、関係機関と連携を取りながら積極的に国土保全活動を展開しております。今後も国土強靭化の一助となるべく、災害に強く安心に暮らせる郷里を皆様と共に創り上げ、社会の期待に応えられるよう、また若者たちにとって明るく元気な協会でいられるよう、会員一同協力して活動して参りますので宜しくお願い申し上げます。

■協会の理念

技術の研鑽に努め、様々な分野で社会に貢献する

■協会の組織図



■協会の歩み

昭和 33.11	協会設立打合会開催	平成 8.9	全地連「技術フォーラム'96」仙台開催
昭和 34.1	「東北ボーリングさく井業協会」設立総会 20社で協会発足	平成 9.8	東北地整局との災害応急対策業務に関する協定締結
昭和 36.5	「東北ボーリングさく井協会報」第1号発刊	平成 10.4	会員数 100 社を超える
昭和 37.3	各地区的協会を結集し 「全国地質調査業協会連合会(全地連)」結成	平成 11.10	東北協会創立 40 周年記念式典
昭和 37.4	全国地質調査業協会連合会(全地連)に加盟	平成 12.1	40周年記念誌「20世紀の大地の歩み」発行
昭和 38.10	名称を「東北地質調査業協会」に改称	平成 18.10	第1回地質情報管理士資格検査試験
昭和 39.2	「全地連」が建設大臣より法人化(社団法人)を許可される	平成 19.1	協会事務局パレスティ仙台1Fに移転
昭和 41.9	第1回地質調査技士資格検定試験、受験者 184名	平成 21.11	東北協会創立 50 周年記念式典 協会誌「大地 50 号・創立 50 周年記念号」発行
昭和 43.5	東北協会創立 10 周年記念式典 会員数 50 社を超える	平成 22.10	宮城県土木部との災害時応援協力に関する協定締結
昭和 52.4	建設省より「地質調査業者登録義務づけ」	平成 23.3	東日本大震災(3月11日)における対策本部を設立 宮城県より緊急被害調査の要請を受ける
昭和 52.6	地質調査業が「中小企業近代化促進法」の特定業種となる	平成 24.2	東日本大震災に関する技術講演会主催
昭和 54.8	東北協会創立 20 周年記念式典	平成 24.7	第1回応用地形判読士資格検定試験
昭和 59.4	「地質調査技士資格検定試験」が建設大臣認定試験となる	平成 26.9	全地連「技術フォーラム 2014」秋田開催
昭和 63.6	協会事務局、錦町から本町(やまふくビル 2F)へ移転	平成 28.3	東北地方整備局より復興加速功労者の表彰を受ける
平成 1.10	東北協会 30 周年記念式典 創立 30 周年記念誌「大地に未来を探る」発行	平成 28.11	一般社団法人東北地質調査業協会に改組
平成 1.12	協会誌「大地」創刊	平成 28.12	ボーリングマイスター「匠」東北の認定制度制定
		平成 30.7	東北土木技術者人材育成協議会主催の基礎技術(土木)講習会に講師派遣
		令和 1.11	東北協会創立 60 周年記念式典 協会誌「大地 60 号・創立 60 周年記念号」発行

■災害協定について

当協会は 1997 年(平成 9 年)に国土交通省 東北地方整備局との間に「災害応急対策業務に関する協定」を締結。

2010 年(平成 22 年)に宮城県土木部との間に「災害時応援協力に関する協定」を締結しました。

以後、東北各地や宮城県内の災害時では、協会員各社が復旧・復興の最前線にて対応しております。

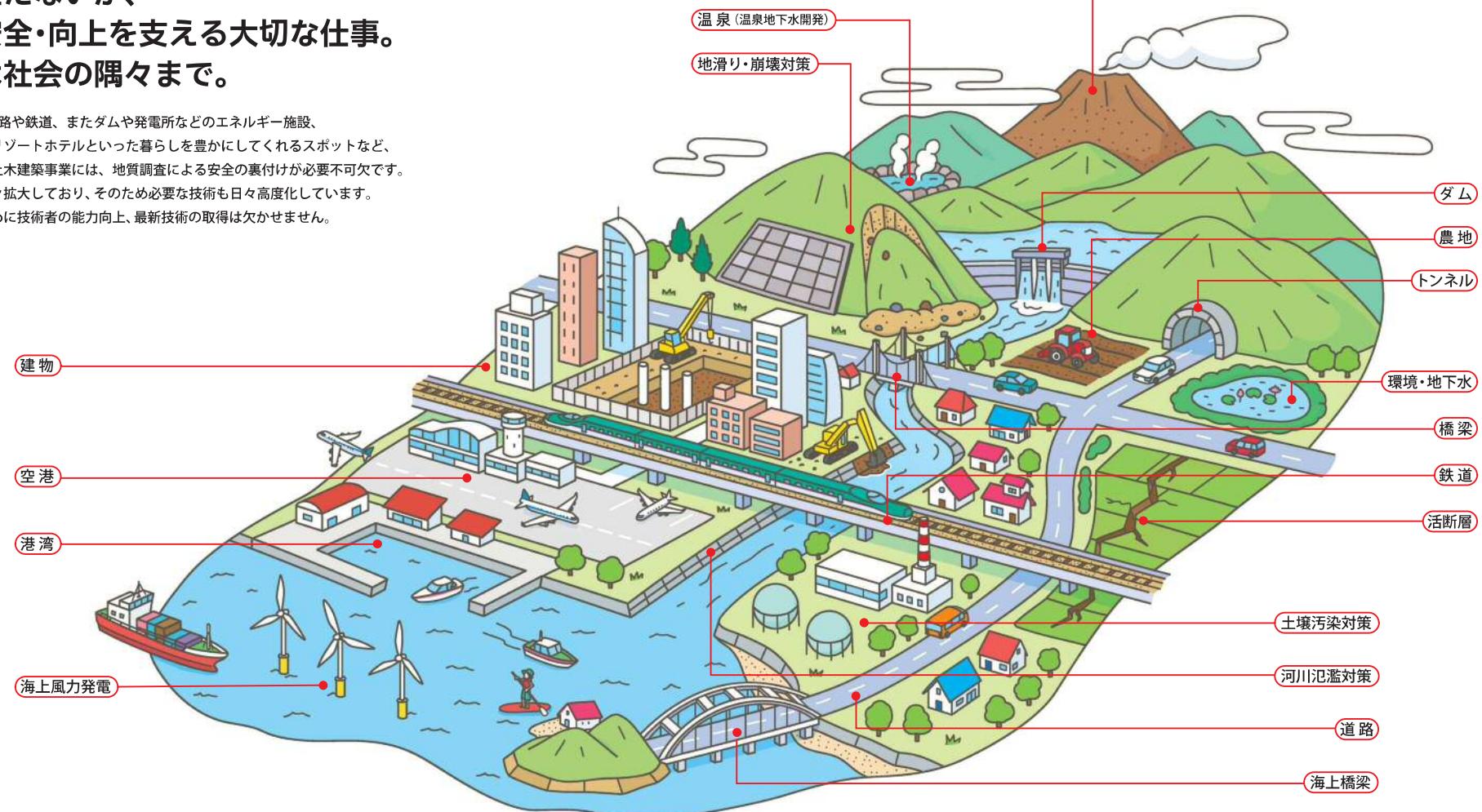


■業務範囲

防災・減災
(地震・火山)

決して目立たないが、 暮らしの安全・向上を支える大切な仕事。 その範囲は社会の隅々まで。

例えば、物流を支える道路や鉄道、またダムや発電所などのエネルギー施設、さらにスポーツ施設やリゾートホテルといった暮らしを豊かにしてくれるスポットなど、社会に必要なあらゆる土木建築事業には、地質調査による安全の裏付けが必要不可欠です。地質調査のニーズは年々拡大しており、そのため必要な技術も日々高度化しています。高まる要求に応えるために技術者の能力向上、最新技術の取得は欠かせません。



地質調査が担う分野は、社会の安全を支える事に留まらず、未来創造にまで及んでいます。

学術 ACADEMIC

国や大学の研究機関の依頼で、地球科学の学術探究に必要な地質調査を実施しています。更に近年関心が高まっている活断層の調査も急増しています。

建設 CONSTRUCTION

最も業務量の多い分野。トンネルやダムをはじめ発電施設、高速道路、新幹線といった公共事業から民間の建築事業など、社会の変化に伴いそのニーズは広がり続けています。

防災 DISASTER PREVENTION

日本は世界でも有数の地震多発国で火山活動も懸念されます。国内のあらゆる建設事業等の安全性を高めるため、地質調査の役割は益々重要です。近年は温暖化の影響もあり、水害、土砂災害も急増しており、防災対策への需要は増すばかりです。

環境 ENVIRONMENT

人の暮らしと密接につながる環境問題。地質調査の関わりは、例えば工場誘致を検討する際、自然環境への負荷を予測したり、逆に工場跡地の状態を調査し、環境修復の基準となるデータを提供するなど様々です。

メンテナンス MAINTENANCE

現在の社会を支える道路・トンネル・橋梁などのインフラは、建設から時間が経ち老朽化への対応が深刻な問題となっています。これらを安全に維持していく上で、今後様々な課題を克服するための新技術開発が期待されています。

資源開発 RESOURCE DEVELOPMENT

石炭・石油・鉱物・地熱など地下資源開発のための地質調査。中でも現在は、地熱発電のための調査が広く実施されています。

■事例紹介

様々なインフラ整備事業に地質調査がどのような役割を担っているのか。(一例を紹介)

ダムの場合



水を貯めるのに適した場所を特定した上で、安全に建築が進められるか、コストはどうかなどの検討に必要なデータを取得するため計画段階で綿密に地質調査を実施します。

橋梁の場合



橋の建設は、工事予定地の地盤の状態によってその型状・基礎工法が決まります。地質調査によって得られるデータは、その設計方針を左右するほどに重要です。

トンネルの場合



トンネルの工事は深い場所での作業になります。掘り進めていく過程で予定外の出水に遭遇するリスクもあります。このため地質調査を掘削工事と同時進行することで、安全と高効率を実現します。

■地質調査のプロセス



古い文献・地質図や歴史など、様々な記録を集め、概要を把握する。



現場を歩き、実際に地質地層などを観察する。



ボーリングマシンを使用して採掘調査する。実際に掘ってサンプルを採取調査する。



現場で専用の機器を用いて地表・地下の様々な計測を行う。



集まったデータを整理して図表などを作成。解析の上必要な情報を提供する。

造成盛土の場合



軟弱地盤に盛土を行う場合に地盤沈下や地盤の変形が懸念されます。事前に地質調査を行い地盤への影響を予測して必要な対策を検討します。

災害現場の場合



様々な自然災害では一刻も早い復旧が望まれますが、そのためには被害状況の把握が急務です。また二次災害を防ぐためにも地質調査を行い、そのデータを元に作業計画を立案する必要があります。復旧を迅速に進めるために、一刻も早く現場に駆けつけ調査を行います。

■協会の活動紹介

地質調査業の普及活動や専門家の立場からのアドバイスなど社会貢献活動を積極的に展開。

出前講座 未来の技術者へ地質調査業界の魅力をアピール。



業界全体の魅力を知つてもらい、将来の担い手となる人材を育てるために、土木工学を学ぶ高校生を対象に出前講座を行っております。講座は「地質調査業を知つてもらう」「地質調査への興味喚起」「地下を探る方法への理解」を目的とし、座学のほかにボーリング調査や表面波探査などの実務で使用する機材を持ち込むことで、目の触れ体で体感する実習を行っております。

講師派遣 エキスパートを派遣して技術者育成に貢献。



建設業界に携わる技術者の育成と実務上の地質リスクマネジメントに対する意識向上のために、各種講習会に講師を派遣しております。たとえば東北土木技術人材育成協議会では、実務経験3~5年程度の技術者を対象とした土質・地質のカリキュラムで、「切土法面の判定と対策」及び「軟弱地盤上の盛土」を担当いたしました。

ボーリングマイスター匠

高度な技術を身につけた匠を称賛。



地質調査業およびボーリングオペレーターの社会的地位の向上を図り、若手の育成を含め、優れたボーリング技術の伝承を図ることを目的に制定されました。現在も、「ボーリングマイスター(匠)東北」を積極的に広く社会へ紹介し、その技術レベルや品位の高さをアピールすることに努め、地質調査業の社会的地位向上と、セミナー等を通じて若手への技術伝承を継続的に行っております。

地質技術者セミナー

交流を通して若手技術者のレベルアップを図る。



地質調査の現場作業は、現場で取得した地盤情報がその地盤に関する解析判定業務の基礎情報となるものであり、この段階での技術的信頼が地質調査業務の根幹をなすものといえます。現場技術者の技術の維持・向上を目指し、技術者向けのセミナーを行っております。

協会誌 大地発行

協会の活動を共有する必須の一冊。



東北地質調査業協会の広報活動として、協会活動の事業報告、会員各社の技術報告や紹介、官公庁との意見交換会報告等を取りまとめて、年一回発刊しております。各号は、東北地質調査業協会のHPに掲載しておりますので、ご興味のある方は是非ともアクセスしてください。